

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成28年3月10日 (2016.3.10)

【公開番号】特開2016-15620(P2016-15620A)

【公開日】平成28年1月28日 (2016.1.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-006

【出願番号】特願2014-136718(P2014-136718)

【国際特許分類】

H 0 4 K 1/08 (2006.01)

H 0 4 B 10/85 (2013.01)

H 0 4 B 10/70 (2013.01)

【F I】

H 0 4 K 1/08

H 0 4 B 9/00 3 8 5

H 0 4 B 9/00 3 7 0

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月12日 (2016.1.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

直線偏光の光子 s が Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b の高速軸に対して - 4 5 ° 又は 4 5 ° の傾きで入射する場合（このときの光子 s の偏光を斜め偏光とする）には、Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b は光子 s を円偏光に変換して出力する。一方、直線偏光の光子 s が Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b の高速軸に対して 0 ° 又は 9 0 ° の傾きで入射する場合（このときの光子 s の偏光を縦偏光又は横偏光とする）には、Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b は光子 s を直線偏光のまま出力する。さらに、Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b が光子 s を円偏光に変換する際、方向は、互いに逆である。具体的には、第 1 の Q W P 1 1 3 a は光子 s を右円偏光に変換し、第 2 の Q W P 1 1 3 b は光子 s を左円偏光に変換する（又はこの逆）。このような構成により、縦偏光又は横偏光の光子 s が Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b に入射する場合には二重スリット板 1 1 4 を通った後に干渉が発生し、斜め偏光の光子 s が Q W P 1 1 3 a、1 1 3 b に入射する場合には二重スリット板 1 1 4 を通った後に干渉が発生しない。